



救護施設  
村山荘

広報誌 スマイル

令和3年9月号 No. 51

発行日 令和3年9月1日(水)

発行責任者 村山荘施設長 田島博志

編集委員 小沼洋一/白石朋子/筒井たえ/藤田真利



社会福祉法人 村山苑

救護施設 村山荘

東京都東村山市富士見町 2-7-5

TEL 042-391-1262 / FAX 042-397-4609

ホームページQRコード



表紙写真 上：村山荘 60 周年記念写真 下[4F 小西さん寄稿]：(左)60 周年記念弁当、(右)カブトムシ

目次

◇祝☆村山荘創立 60 周年記念 ①理事長 寄稿 ②利用者 インタビュー

◇祝?『スマイル倶楽部』創立 17 周年 寄稿 ◇合同俳句・短歌の会 特選・佳作 受賞

# 祝 ☆ 村山荘 創立 60 周年！

【村山荘創立 60 周年にあたって】

理事長 品川 卓正

村山荘は去る令和3年6月1日(火)、創立60周年を迎えました。

これを記念し、長年、村山荘で施設長を務めていらした品川卓正理事長へ本誌への寄稿のお願いと、本年で満60歳となる利用者の皆様へのインタビューを実施しました！

村山荘は、今年創立60周年を迎えました。村山荘は昭和36(1961)年6月、村山苑が社会福祉法人として認可されてから、宿泊施設「村山寮」に次いで2番目に開設された施設です。

村山荘の歴史を振り返ると、村山苑の前身である財団法人「明照会」は、戦後間もない昭和21(1946)年12月から、生活困窮者等を対象とした保護施設を経営していました。明照会は、昭和26(1961)年に社会福祉法が施行されたことにより、関係者有志が昭和27(1952)年6月、社会福祉法人「村山昭和寮」を設立して国の認可を得たことを機に、保護施設の経営を村山昭和寮に譲渡しました。村山昭和寮は、譲渡された保護施設を更生施設「村山昭和寮(定員500名)」として認可を得ました。その後、昭和30(1955)年1月、更生施設を分離して定員263名とし、

○2021/6/1(火)創立記念日 昼食時の様子○

併せて、141名の宿所提供施設「村山昭和寮」を設立し、認可を受けています。

社会福祉法人「村山昭和寮」は、昭和34(1959)年5月に経営上の不手際から行政指導を受けて事業廃止し、経営者が交替しました。新しい経営者は昭和35(1960)年12月に法人名を「村山苑」に改めて、生活困窮者を対象とした保護施設事業として宿泊施設「村山寮(定員130名)」を開設し、翌36(1961)年6月、救護施設「村山荘(定員39名)」を開設しました。



村山昭和寮の入所者の多くは戦後の社会環境が落ち着くにしたがって、社会復帰をしていきました。しかし、働く意欲があっても働き口がない人、また、高齢者や病弱者、障害者等は施設生活を継続せざるを得ませんでした。そこで、新しい経営者は、この利用者の受け皿として村山寮と村山荘を開設したわけです。

村山寮は、生活困窮者のために低廉な使用料で住居を提供することを目的とする社会福祉法に基づく施設ですから、比較的元気な方が入所し、村山荘には、高齢者や病弱者、そして障害者の方が入所しました。村山寮は社会環境の変化によって、入所利用者が激減し、施設の存在意義が問われてきましたので、平成7(1995)年に事業を廃止しました。一方、村山荘は障害の種別、程度を問わず、また、生活困窮者等も受け入れる地域のセーフティネットの施設として必要不可欠の施設となって現在に至っています。

しかし、平成30年生活保護法が改正され、無料定額宿泊所が日常生活支援住居施設として制度化され、今度は救護施設を含む保護施設の見直しが検討されています。救護施設が真のセーフティネット施設としての役割を果たすためには、個々の施設が循環型施設を意識して、利用者の地域移行に積極的に取り組むことが重要です。

村山荘も創立60周年を機に、改めて、施設機能の充実強化を目指し、入所中の居宅生活訓練事業、地域移行後の通所・訪問事業、そして地域生活が一時的に不安定な時に利用する一時入所事業に積極的に取り組み、セーフティネット施設として地域及び社会のニーズに応えてほしいと思います。

村山荘 簡易年表 (作成：藤田)

定員

昭和36(1961)年	救護施設 村山荘 開設	39名
昭和37(1962)年	収容棟の増設	70名
昭和38(1963)年	収容棟の増設	96名
昭和41(1966)年	管理・収容棟の改築	102名
昭和44(1969)年	第一回 運動会 開催	
昭和45(1970)年	浴場の増改築	144名
昭和47(1972)年	初の益供養	
昭和49(1974)年	納涼祭にて、初の地域交流	
昭和51(1976)年	近隣8施設自衛消防隊 相互応援協定 締結	
昭和52(1977)年	松寮・竹寮・梅寮の取り壊し	
昭和53(1978)年	全面改築 現在の施設本館 完成	115名
昭和54(1979)年	建物の一部廃棄処分	108名
昭和55(1980)年	品川卓正氏(現理事長)が施設長就任	
昭和56(1981)年	初の初詣	
昭和57(1982)年	居室の名称・用途・位置 変更	100名
昭和58(1983)年	朝の散歩 開始	
昭和60(1985)年	精神科嘱託医来荘(月2回)開始	
昭和61(1986)年	夜間避難訓練 開始 各階喫煙所 設置	
昭和62(1987)年	夜間の職員を警備員含む3名体制へ ひばりヶ丘自治会と8施設自衛消防 隊との間で応援協定 締結	
昭和64/平成元 (1989)年	消防法改正 スプリンクラー設置	
平成5(1993)年	訓練棟の改築	
平成8(1996)年	喫茶店『モナコ』初開店	
平成10(1998)年	広報誌『スマイル』創刊	
平成13(2001)年	苦情解決制度の導入	
平成14(2002)年	初の環境整備(奉仕)	
平成15(2003)年	福祉サービス第三者評価制度導入 ハトホームの空き部屋を利用し、 (独自事業)通所・訪問事業 『スマイル倶楽部』開設	
平成16(2004)年		
平成18(2006)年	個別支援計画書 正式導入 (独自事業)居宅生活訓練事業 開始 訓練棟エレベーターの増設	
平成20(2008)年		
平成23(2011)年	村山荘創立50周年記念	
平成24(2012)年	一時入所事業 開始	
平成28(2016)年	居宅生活訓練事業 正式事業化、 名称を『いっぽ』とする	
平成29(2017)年	『いっぽ』の職員を兼任含む2名へ	
平成30(2018)年	『いっぽ』の職員を兼任含む3名へ	
平成31/令和元 (2019)年	ハトホーム建て替えに伴い、 『スマイル倶楽部』引っ越し	

# 祝生誕 ☆ 個人 60 周年記念インタビュー

## 【テーマ】人生で一番の思い出

(4F) 持永さん

### 【人生で一番の思い出】

テニスサークルで知り合った女性への猛アプローチで交際できたことかな。

### 【人生において、心掛けてきたこと】

目の前のことにコツコツと地道にきちんと取り組むことかな。

(2F) 神山さん

村山荘で一昨年に行った伊豆の利用者旅行です。

夕食で伊勢エビが出てすごく美味しかったこと、夕食後にカラオケをしてすごく楽しかったことが一番の思い出です。

### 【謝意】

実は神山さんは満 60 歳ではないのに間違えてインタビューをしてしまいました。ごめんなさい！

ですが、素敵な思い出だったことと、ご本人の許可をいただけたので、内容はそのまま掲載します。ありがとうございます！

(3F) 齊藤さん

一昨年に行われた忘年会が一番思い出に残っています。

オペラ歌手の歌を聴いて涙が出るほど感動しました。調理の肥沼職員によるアイスショーも非常に印象的で、楽しく美味しくいただくことができました。音楽クラブによるハンドベルもすごく良かったです。

またコロナが落ち着いて忘年会ができると良いです。

(3F) 木村さん

今年 3 月におこなったキッチンカーイベントが一番思い出に残っています。

クレープと東村山焼きそば、チャーシュー丼を食べて、とても美味しかったです。コロナ過であまり外出もできない状況だったため、外で食事をすることでリフレッシュできました。

(2F) 松本さん

6~7 年前に利用者旅行で行った鴨川シーワールドが一番の思い出です。

海がすごく綺麗だった。食事も美味しく、新鮮な海の幸を堪能することができました。

## 祝？ 通所・訪問事業『スマイル倶楽部』開設 17 周年！

村山荘 60 周年の本年、通所・訪問事業『スマイル倶楽部』は開設 17 年目となりました。  
特にきりのいい数字ではありませんが、創立 17 周年記念として、担当職員へ本誌への寄稿をお願いしました！

### 【通所・訪問事業『スマイル倶楽部』創立 17 周年を迎えて】 通所援助員 小野崎 利紀

スマイル倶楽部も早いもので創立 17 周年を迎えました。17 といえば、ソフトボール日本代表の上野選手の背番号ですね。13 年越しの東京オリンピック金メダル獲得は素晴らしいですが、13 年間続けて取り組んできたことにそれ以上の価値があると思います。

通所・訪問事業『スマイル倶楽部』ですが、平成 16 年 4 月に施設独自事業として開設しました。現在利用している契約者は 14 名で、村山荘を退所した方だけではなく、近隣で地域生活されている方も利用しており、福祉作業所やデイサービスへ通いながら訪問や付添支援を利用している方もいます。アパートから村山荘へ通所して、作業やクラブ活動に参加し、給食を食べることができたり、最近ではコロナ禍で自粛していますが、一緒にカラオケや、スーパーで買物をしてバーベキューへ行くなどの余暇活動もあつたりします。また、訪問による各種相談・手続きや通院付添などもおこなっています。

单身生活を始めると自由も増えますが、自身でやるべきことも増えます。得意・不得意は各々違うので、実際にやってみて自分の長所や短所を知り、長所は活かしながら、苦手なところはどのように補っていくかを一緒に考えて取り組んでいきましょう。村山荘では、地域へ出る前に单身生活の訓練ができる「居宅生活訓練事業」も実施しており、居宅生活訓練事業の担当職員は各フロアにいますので、ご相談ください。

村山荘の支援以外に、地域には色々と利用できる社会資源があり、利用条件に当てはまれば、お金のやりくりを一緒に考えてくれる金銭管理支援事業・看護師が訪問してくれ体調や服薬管理の相談ができる訪問看護・お弁当を自宅へ届けてくれる宅配食・掃除や買物代行をしてくれるヘルパーなど、様々な支援を利用することもできます。村山荘に入所されている皆さんの中には、入所したことで安心して生活されている方もいれば、集団生活は合わないなど感じる方もいると思います。これからの人生をどのように歩んでいくか、職員と一緒に考えてみませんか。あなたの決断に寄り添い、時にはアドバイスもしながら、自分らしい生活が継続できるように、スマイル倶楽部はこれからも皆さんを支援していきます。

## 俳句・短歌の会にて

### 特選・佳作 受賞

令和 3 年 6 月 17 日(木)開催の救護部会合同俳句・短歌の会にて、3F 松居さんの作品が特選と佳作に選出されました！



おめでとうございます！

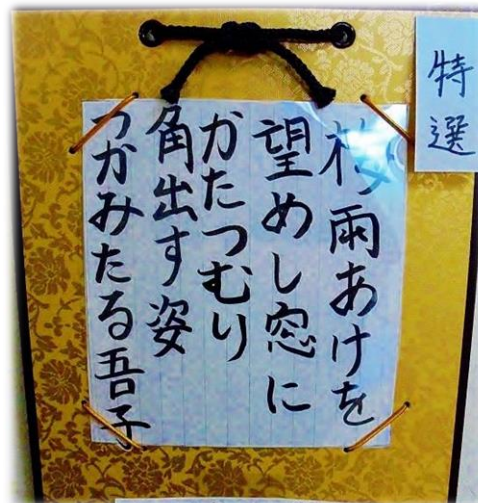
#### 受賞者の経歴

東京生まれ。電子基板設計の仕事、帝国ホテル列車食堂や資格取得のための教育、人材育成、出版関係等で絵や校正の仕事へ永年、携わっていた。もともと絵や文章を書くことは得意だった。子育て中は自宅で通信教育の採点を行ったり、POP 広告制作の仕事をしたりしていた。

#### 受賞者より一言

色々な経験を経て発想力・ひらめきが生まれている。読書と音楽が新たなイメージーションを彷彿させてくれる！

#### ○受賞作品



#### ○受賞者特別寄稿 秋の句

風爽か <sup>さや</sup>すすきの波を かすめ渡る  
ふく風や 雁がね寒き 茜雲

#### ☆作品募集☆【村山荘入所中の方限定】

写真・俳句・短歌・詩などなど、来年 1 月発行予定の『スマイル』へ掲載する作品を募集しています。ご興味のある方は編集委員(1 ページ目記載)までご連絡ください。